

基本的な現状認識

- **都市鉄道は、人口稠密な我が国都市の社会経済活動を支える重要な基盤**。我が国が人口減少局面を迎える中においても、**利用者ニーズに的確・迅速に応える都市鉄道の整備を着実に進めていくことが重要**。都市鉄道の利便性を高め利用を促進していくことは、**2050年カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現のためにも重要**。
- **都市鉄道整備の担い手である鉄道事業者は、近年の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により経営・財務状況が悪化し、設備投資額も大きく減少**。コロナ禍を受けた人々の行動様式の変容や中長期的な人口減少により今後は輸送需要の大幅な拡大が見込めない中、**大規模な設備投資に積極的に取り組むことが困難な状況**。
- 都市鉄道整備については、投資規模の大きさや、利用者利便に大きく寄与する等の公益性に鑑み、**これまでも各種の補助制度等を通じて支援を講じてきたが、国・自治体の財政状況は厳しいものがある**。

議論の視点

- 都市鉄道の整備は、鉄道利用者の利便性を向上させるだけではなく、沿線地域の活性化など多様な主体に幅広く受益するもの。今後の都市鉄道整備を考える上では、これまで以上に、こうした視点を重視する必要があるのではないか。**今後の都市鉄道の整備（新線整備、輸送力増強、大規模な駅改良など）を着実に進めていく上での基本的な考え方とはどのようなものか。**
- 特に、都市鉄道整備を着実に進める上でポイントとなる**費用負担についての基本的な考え方（負担の主体、負担の方法等）とはどのようなものか。**
- 利用者のニーズに的確・迅速に対応した都市鉄道整備を進めていく上で、**現行の制度（特に利用者負担制度）にはどのような課題があるか。**